

『開国史研究』 創刊号

平成 13 年（2001 年）3 月発行

口絵資料紹介・解説「軍艦コロンバス」の絵図

山 本 詔 一

『開国史研究』創刊にあたり

横須賀開国史研究会会長

山 本 詔 一

<設立総会記念講演>

ペリー来航とその時代

横浜市立大学学長

加 藤 祐 三

<シンポジウム報告>

小栗上野介 ―横須賀製鉄所の生みの親―

パネリスト

横須賀市長

沢 田 秀 男

横浜国立大学名誉教授

西 堀 昭

群馬県知事

小 寺 弘 之

仏リール第 1 大学講師

エリザベット・ドウ・トゥーシエ

コーディネーター

横須賀開国史研究会会長

山 本 詔 一

<論 文>

小栗上野介と徳川幕府の鋳砲事業改革

浅 川 道 夫

近世三浦半島海防史概説

中 里 行 雄

<研究レポート>

三浦半島を中心とした御台場支配の変遷図

古 谷 彦 逸

「南浦書信」紹介

鈴 木 肇

<史跡めぐり>

浦賀・久里浜の史跡を訪ねる

小倉 隆代 編

<開国史講座>

ビッドル来航と鳳凰丸建造

山 本 詔 一

<開国史関係文献目録>

山本 詔一 編

『開国史研究』 第二号

平成 14 年（2002 年）3 月発行

口絵資料紹介・解説

山 本 詔 一

『開国史研究』発刊にあたり

横須賀開国史研究会会長

山 本 詔 一

<総会記念講演>

幕末の海防政策と軍艦建造

東京大学教授

安 達 裕 之

<シンポジウム報告>

「小栗上野介」シンポジウム

基調講演

作家

童 門 冬 二

鼎談

作家

童 門 冬 二

横須賀市長

沢 田 秀 男

群馬県知事

小 寺 弘 之

<特別寄稿>

ニコラス・B・ウェインライト著

「ジェームズ・ビッドル提督と彼のスケッチブック」

解説・訳

平 尾 信 子

<研究レポート>

対岸（安房・上総）の知行所支配村が迎えた異国船

北 川 清 作

<投稿コーナー>

対ペリーに関する「疑問」二題

碓 井 文 昭

狂乱物価と明治維新

水 野 滋

小栗上野介のまぼろしの洋館と戦前の東京の洋館たち

伊 東 信 子

<講座参加記>

「彼理日本紀行」を受講して

佐々木 寛

「古文書を読む会」に参加して

「幕末の海防政策」を受講して

古 谷 彦 逸

「揺れ動く天保時代の社会と政治」を受講して

佐 藤 豊

<史跡めぐり>

大津周辺の史跡を訪ねる

走水・鴨居周辺の史跡を訪ねる

『開国史研究』 第三号

平成 15 年（2003 年）5 月発行

口絵資料紹介・解説『ハイネ画久里浜上陸之図』

山 本 詔 一

『開国史研究』発刊にあたり

横須賀開国史研究会会長

山 本 詔 一

<総会記念講演>

東京湾内の台場建設と地域住民

横浜開港資料館調査研究員 西 川 武 臣

<開国史講演会>

ペリー来航、その予兆と現実

明海大学助教授 岩 下 哲 典

ー吉田松陰の情報収集と白旗書簡への評価ー

<論 文>

浦賀奉行所管下の台場にみる様式火砲

浅 川 道 夫

<研究レポート>

『関機規則』について

大 出 鍋 蔵

黒船来航を知らせる一つの書簡

大 出 鍋 蔵

<投稿コーナー>

中島三郎助の孫・清氏会見記

佐々木 寛

ペリーの墓標発見

碓 井 文 昭

開国と電信

坪 三 次

<講座参加記>

「下田黒船祭」に参加して

石 田 妙 子

講座「ペリーの手紙」を受講して

佐 藤 豊

講座「幕末の海防政策」を受講して

岡 野 弘 男

「古文書を読む会」を受講して

『開国史研究』 第四号

平成 16 年（2004 年）5 月発行

口絵資料紹介・解説『横須賀一覧図』

山 本 詔 一

『開国史研究』発刊にあたり

横須賀開国史研究会会長

山 本 詔 一

＜総会記念講演＞

モリソン号事件とマンハッタン号事件 ―文化の誤解から認識へ―

国学院大学非常勤講師・作家 春 名 徹

＜研究レポート＞

国旗日の丸のルーツは

石 井 行 夫

―浦賀建造の幕府軍艦・鳳凰丸―

『南浦書信』を読む

大 出 鍋 蔵

―幕閣と浦賀奉行の異国船対策―

鳳凰丸の帆走について

村 上 太

「関機規則」について（その二）

大 出 鍋 蔵

＜投稿コーナー＞

「スループ船評議」について

山 本 詔 一

黒船来航久里浜上陸の図

坪 三 次

中島三郎助および関連系譜

松 方 尚 義

＜特別収録＞

ペリーよりデラノへの書簡

平 尾 信 子

―日本遠征艦隊派遣をめぐる―

『開国史研究』 第五号

平成 17 年（2005 年）5 月発行

口絵資料紹介・解説『擬芝居番付世界国尽くし』の絵図
『開国史研究』発刊にあたり 横須賀開国史研究会会長

田 中 葉 子
山 本 詔 一

<総会記念講演>

黒船来航時に演奏された音楽

放送大学助教授

笠 原 潔

<論 文>

ペリー提督の上陸用舟艇

北 村 陽 子

彦根藩の相州警備と西洋流砲術

浅 川 道 夫

ペリー来航以前における浦賀奉行所の白旗認識と異国船対策
ーペリーの白旗書簡論争へのひとつの回答ー

岩 下 哲 典

長州藩の相州警備に見る預所経営と民政思想

竹 本 知 行

<研究レポート>

「旗本土方家文書」に見られる

高 木 文 夫

幕末最後の浦賀奉行土方出雲守勝敬関係史料

生麦事件の賠償金穴埋（？）の一考察

大 出 鍋 蔵

過去帳に見る中島三郎助ならびにそのルーツ

松 方 尚 義

「閑譚規則」について（その三）

大 出 鍋 蔵

<投稿コーナー>

食べもの百年の変化

佐々倉 洋 一

ー食料を自給していたころーそして今は
久里浜上陸から東京湾の現状まで

坪 三 次

『開国史研究』 第六号

平成 18 年（2006 年）5 月発行

口絵資料紹介・解説『相房御台場』

山 本 詔 一

『開国史研究』発刊にあたり

横須賀開国史研究会会長

山 本 詔 一

<総会記念講演>

江戸 260 年の天下泰平と開国

(財) 徳川記念財団理事長・徳川家第 18 代当主

徳 川 恒 孝

<開国史講演会>

技術者小野正作の自伝に見る明治初年の横須賀造船所

東京大学助教授

鈴 木 淳

<論 文>

会津藩の江戸湾警備

浅 川 道 夫

ペリー来航をめぐる狂歌

田 中 葉 子

—「泰平の眠りをさますじようきせん」の検討—

会津藩の江戸湾警備と房総諸藩の動向

山 本 哲 也

—弘化・嘉永期を中心に—

<研究レポート>

ペリー来航異聞

大 出 鍋 蔵

—ペリーは「白旗」も「書簡」も渡していない—

中島三郎助関連余聞

松 方 尚 義

別段風説書と江戸の鉄砲師

北 村 陽 子

<投稿コーナー>

異船来航と古文書

坪 三 次

『開国史研究』 第七号

平成 19 年（2007 年）3 月発行

口絵資料紹介・解説『異国舟之図』

久保木 実

『開国史研究』発刊にあたり

横須賀開国史研究会会長

山本 詔一

<総会記念講演>

長期危機への対応

東京大学大学院教授

三谷 博

～十九世紀前半の対外政策～

<論文>

川越藩の相州警備

浅川 道夫

<研究レポート>

『関畿規則』の現代語要約（その四）

大出 鍋蔵

咸臨丸乗組員と横須賀製鉄所

佐々木 寛

古文書を読む『副題 長州藩医 飯田正伯について』

松方 尚義

佐倉藩の相州警備について

山本 哲也

<その他>

【史料紹介】彦根藩の相州諸台場に関する史料

浅川 道夫

【史料紹介】『清英阿片一件風説書』と幕末の海防

大出 鍋蔵

「開国史に関する古文書を読む会」浦賀行日記

大塚 進

「開国史基礎講座」受講の概要

佐々木 成

研究講座ならびに史跡めぐりに参加して

開国史研究会会員

横須賀開国史研究会への投稿

橋本 鉦一

横須賀開国史研究会に参加して

酒井 俊生

開国と電信（Ⅱ）

坪 三次

『開国史研究』 第八号

平成 20 年（2008 年）3 月発行

口絵資料紹介・解説『捕鯨船マンハッタン号浦賀来航図』
『開国史研究』発刊にあたり 横須賀開国史研究会会長

平 尾 信 子
山 本 詔 一

<総会記念講演>

幕末来日の外国人が見た庶民教育 元専修大学教授
～ペリー、シューリマンの見聞記から～

青 木 美智男

<論 文>

文久三年における浦賀奉行所の砲術演習 拓殖大学講師
－「浦賀史料」収載文書の分析を中心に－

浅 川 道 夫

<研究レポート>

『関機規則』の現代語要約（その五）
中島三郎助の由緒書からみた御褒美について
「実録」横須賀の空襲
－「B25 爆弾機」の行動を明らかにする－
中島三郎助御令姉婚家筋穂積家関連系譜他

大 出 鍋 蔵
大河内 将 俊
岡 野 弘 男

定詰通詞が浦賀奉行所に与えた影響について

穂 積 総一郎
松 方 尚 義
大 出 鍋 蔵

<投稿コーナー>

開国史研究会とウォーキング
研究講座「ペリー艦隊サラトガ号の大航海」を受講して
会津の伝統芸能「彼岸獅子」を守る子どもたち
会津若松訪問交流記
唐 人 船

黒 沢 四 郎
大 西 俊 明
田 平 憲一郎
橋 本 紘 一
坪 三 次

<資料紹介>

浦賀奉行所関係史料『新訂 臼井家文書 第五巻』

浦賀古文書研究会編

<新発見史料>

『ペリー日本遠征艦隊サラトガ号
ウォーカー艦長公式通信複写集』について

平 尾 信 子

『開国史研究』 第九号

平成 21 年（2009 年）3 月発行

口絵資料紹介・解説『横須賀軍港鎮遠号観覧之図』

山 本 詔 一

『開国史研究』 発刊にあたり

横須賀開国史研究会会長

山 本 詔 一

＜総会記念講演＞

アジアの中の日本開国

神奈川県立歴史博物館

嶋 村 元 宏

＜論 文＞

長崎青方文書「浦賀実録」の検討

田 中 葉 子

－狂歌「泰平の」の成立をめぐって－

岩 下 哲 典

幕末、洋才和魂の諸相

草 間 俊 郎

－水戸藩を中心に－

浦賀奉行所の鋳砲事業

浅 川 道 夫

＜研究レポート＞

幕末期、通詞達の活躍とその業績

新 井 三 郎

『異国船之事』 －「ビッドル効果」とは－

杉 浦 隆 之

＜資料紹介＞

竹ヶ岡台場関係文献・史料目録

山 本 哲 也

浅 川 道 夫

1853 年 5 月 7 日付

THE ILLUSTRATED LONDON NEWS の要訳について

高 野 栄 一

－米国艦隊の日本遠征－

＜その他＞

猶ほ土蔵附売家の栄誉を残す可し

大 出 鍋 蔵

－横須賀製鉄所（造船所）創立異聞－

タウンゼンド・ハリス雑感

碓 井 文 昭

中島三郎助の修行した武術について

大河内 将 俊

『開国史研究』 第十号

平成 22 年（2010 年）3 月発行

口絵資料紹介・解説『海軍水雷学校』

山 本 詔 一

『開国史研究』 発刊にあたり

横須賀開国史研究会会長

山 本 詔 一

<総会記念講演>

「開国」とは何だったのか

立教大学教授

荒 野 泰 典

ーいわゆる「鎖国」との関連で考えるー

<論 文>

浦賀の郷兵について

浅 川 道 夫

<史料紹介>

ペリー艦隊浦賀来航直後に流布していた

齋 藤 純

「太平のねむけをさます上喜撰」狂歌

<研究レポート>

日米和親条約における領事駐在規定をめぐる考察

今 津 浩 一

ー日本側交渉団が意図的に条文を改編したのかー

私見、ペリー記念碑と日露戦争

碓 井 文 昭

ー米国より里帰りの資料からー

『浦賀史料』 異国船渡来之節御褒美之控を読んで

大河内 将 俊

『関機規則』の現代語要約（その六）

大 出 鍋 蔵

文久二年の竹内使節団によるフランス訪問の意義について

塚 越 俊 志

<投稿コーナー>

「古文書を読む会」十年の記録

深 谷 進

在庫わずか

『開国史研究』 第十一号

平成 23 年（2011 年）3 月発行

口絵資料紹介・解説

『天保十五甲辰年三月以来浦賀

湊江異国船漂着船之絵図并ニ国名乗込人数銘々記』

山 本 慧

『開国史研究』 発刊にあたり

横須賀開国史研究会会長

山 本 詔 一

<総会記念講演>

知られざる幕府海軍総裁・矢田堀景蔵

歴史時代小説家

植 松 三十里

<論 文>

沼津藩の海防と伊豆東岸の台場

浅 川 道 夫

<史料を読む>

『横須賀繁昌記』を読む（一）

山 本 詔 一

『浦賀奉行 井戸石見守筆記』を読む

大 出 鍋 蔵

<投稿コーナー>

浦賀奉行組与力 中島三郎助の江戸湾海防論

小 川 直 樹

日米和親条約における領事駐在規定をめぐる考察 ～補遺～

今 津 浩 一

江戸湾海防における横文字書付と通詞

山 本 慧

<報告記事>

『オネイダ』と『アメリカ』 ～江戸湾での二件の惨事～

碓 井 文 昭

『開国史研究』第十二号

平成 24 年（2012 年）3 月発行

口絵資料紹介・解説『アメリカ船図』

齋 藤 純

『開国史研究』発刊にあたり

横須賀開国史研究会会長

山 本 詔 一

<総会記念講演>

湊町浦賀と人びとのくらし

東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授

吉 田 ゆり子

<開国史講演会>

「黒船」を見た人びと

元専修大学講師

齋 藤 純

ーペリー艦隊浦賀来航を目撃した記録からわかってきたことー

<論 文>

下田港の台場について

浅 川 道 夫

<史料を読む>

『横須賀繁昌記』を読む（二）

山 本 詔 一

『浦賀奉行 井戸石見守筆記』を読む（二）

大 出 鍋 蔵

<研究レポート>

異国船来航と炊き出しについて（その一）

山 本 慧

柴田使節団の派遣と任務、及び帰国後の動向について

塚 越 俊 志

<書 評>

今津浩一著『ペリー提督と開国条約』

岩 下 哲 典

『開国史研究』 第十三号

平成 25 年（2013 年）3 月発行

口絵資料紹介・解説『サラトガ号』

平 尾 信 子

『開国史研究』発刊にあたり

横須賀開国史研究会会長

山 本 詔 一

＜総会記念講演＞

日本開国史を見なおすために
ー江戸湾を舞台にー

北海道大学名誉教授

井 上 勝 生

＜開国史講演会＞

ぺるり物語（第一部）講演
（第二部）対談

横須賀開国史研究会会長

山 本 詔 一

元専修大学講師

齋 藤 純

横須賀開国史研究会会長

山 本 詔 一

＜開国史研究講座講義録＞

徳川将軍の「旅」と浦賀
ー天保の日光社参と文久上洛ー

椿 田 有希子

＜史料を読む＞

『横須賀繁昌記』を読む（三）
『嘉永新聞』と越後高田藩

山 本 詔 一

齋 藤 純

＜研究レポート＞

詳解浦賀詰通詞
ペリー提督チェスト

山 本 慧

碓 井 文 昭

『開国史研究』 第十四号

平成 26 年（2014 年）3 月発行

口絵資料紹介・解説『新工夫絵花火』

田 中 葉 子

『開国史研究』発刊にあたり

横須賀開国史研究会会長

山 本 詔 一

<総会記念講演>

かわら版のなかのペルリたち

東京都北区教育委員会文化財専門員

田 中 葉 子

<開国史講演会>

第一部 講演 山国会津の侍、日本の海を守る

―幕末会津藩海防史―

前会津若松市立会津図書館長

野 口 信 一

第二部 対談

前会津若松市立会津図書館長

野 口 信 一

横須賀開国史研究会会長

山 本 詔 一

<史料を読む>

『横須賀繁昌記』を読む（四）

山 本 詔 一

<レポート>

異国船来航と炊き出しについて（その二）

山 本 慧

開国の設計図

今 津 浩 一

―古賀謹一郎のペリー対策上申書

『開国史研究』 第十五号

平成 27 年（2015 年）3 月発行

口絵資料紹介・解説『大日本名所図会 横須賀湊風景』
『開国史研究』発刊にあたり 横須賀開国史研究会会長

久保木 実
山 本 詔 一

<総会記念講演>

幕臣小栗上野介忠順の幕政改革構想と横須賀製鉄所

国立歴史民俗博物館名誉教授 高 橋 敏

<開国史講演会>

第一部 講演 富岡製糸場の設立に関わる横須賀製鉄所との関連性について

富岡製糸場総合研究センター学芸員 岡 野 雅 枝

第二部 対談

富岡製糸場総合研究センター学芸員 岡 野 雅 枝
横須賀開国史研究会会長 山 本 詔 一

<開国史研究講座 講義録>

横須賀製鉄所の人々
ー日本近代化の原点ー

横浜国立大学名誉教授 西 堀 昭

<レポート>

幕末の横須賀製鉄所
『井関隆子日記』に見る浦賀奉行以前の戸田氏栄

山 本 詔 一
大河内 将 俊

<史料を読む>

ブラザース号浦賀来航の記録

齋 藤 純

『開国史研究』 第十六号

平成 28 年（2016 年）3 月発行

口絵『日本名勝図会 観音崎』

口絵解説

『開国史研究』 発刊にあたり

横須賀開国史研究会会長

山 本 詔 一

山 本 詔 一

<総会記念講演>

横須賀造船所再考

東京大学教授

鈴 木 淳

ー地元出身者の就業に注目してー

<開国史講演会>

幕府の運命、日本の運命

東善寺住職

村 上 泰 賢

ー小栗上野介の日本改造と横須賀製鉄所ー

<開国史研究講座 講義録>

海軍のマザーランド・横須賀の歩み

防衛大学校名誉教授

田 中 宏 巳

私の開国史研究

元横浜市立大学学長

加 藤 祐 三

横須賀製鉄所をめぐる柴田使節団のフランスでの活動

塚 越 俊 志

山高左太夫考

齋 藤 純

ーニセ横須賀奉行騙り事件の横須賀製鉄所伝習生ー

横須賀造船所で製造された我国初の陀螺水車

白 石 健 一

『横須賀繁盛記を読む』（五）

山 本 詔 一

横須賀製鉄所（造船所）関係文献目録

有 馬 正 泰・齋 藤 純

「古文書を読む会」の記録 （2）

深 谷 進

『開国史研究』 第十七号

平成 29 年（2017 年）3 月発行

口絵『ブラザーズ号船図』

口絵解説

『開国史研究』 発刊にあたり

横須賀開国史研究会会長

齋 藤 純

山 本 詔 一

<総会記念講演>

横須賀製鉄所の妹・富岡製糸場

歴史時代小説家

植 松 三十里

<開国史シンポジウム>

ペリー来航とその後の浦賀町

横浜開港資料館副館長

西 川 武 臣

文政元年ブラザーズ号の浦賀来航

齋 藤 純

ブラザーズ号の浦賀来航の記録・補遺

齋 藤 純

日本開国を決断させたのは誰か

今 津 浩 一

ー『ペリー日本遠征記』とオランダ官報をめぐってー

史跡 東京湾要塞跡

野 内 秀 明

猿島砲台跡・千代ヶ崎砲台跡

『横須賀繁昌記』を読む（六）

山 本 詔 一

ペリーとピストルと桜田門事変

澤 田 平

『開国史研究』第十八号

平成 30 年（2018 年）3 月発行

口絵『ポーハタン号船図』

田 中 葉 子

口絵解説

岩 下 哲 典

『開国史研究』発刊にあたり

横須賀開国史研究会会長

山 本 詔 一

<総会記念講演>

「生き方雑記帖 ―ジョン万次郎調査行―

作家 山 本 一 力

<開国史講演会>

黒船来航絵巻「金海奇観」とその時代 東洋大学文学部教授

岩 下 哲 典

―仙台藩儒者・砲術家大磐溪とペリー再来日―

<開国史研究講演録>

軍港都市の陸軍―平時と戦時の重砲兵―

高 村 聰 史

前島密と横須賀

辻 井 善 彌

日本遺産とその施設建設に携わった主な海軍技師たち

長 浜 つぐお

横浜からの手紙

齊 藤 純

―松代藩絵師高川文筈と「横浜応接場秘図」―

『横須賀繁昌記』を読む（七）

山 本 詔 一

浦賀奉行戸田伊豆守氏栄と大垣藩城代家老小原鉄心

丸 山 克 彦

浦賀奉行所の与力と同心について

山 本 慧

『開国史研究』第十九号

平成 31 年（2019 年）3 月発行

口絵『サラセン号船図』

口絵解説

第十九号発刊にあたり

横須賀開国史研究会会長

齋藤 純

山本 詔一

<総会記念講演>

ペリーとハリスのあいだ ―世界史のなかの日本開国―

京都橘大学准教授

後藤 敦史

<開国史講演会>

小栗上野介と横須賀製鉄所（造船所）

東善寺住職

村上 泰賢

<開国史研究講座>

近代横須賀の市政と人々

日本女子大学名誉教授

吉良 芳恵

ペリー来航対策の大名上申書

今津 浩一

―徳川斉昭編「邊蛮彙議」による分析―

名村五八郎と仲間たち ―日本近代化への実動部隊―

碓井 文昭

旧横須賀軍港・逸見波止場衛門の特徴と意義

白石 健一

『横須賀繁昌記』を読む（八）

山本 詔一

<史料紹介>

上野介小栗君紀功碑について

樋口 雄彦

サラセン号浦賀来航の記録（一）

齋藤 純

ブラザーズ号浦賀来航の記録・補遺（二）

齋藤 純

『開国史研究』 第二十号

令和2年（2020年）3月発行

－創刊二十周年記念号－

口絵『軍艦・八雲の浦賀ドック入渠風景』

口絵解説

山本 詔一

第二十号発刊にあたり

横須賀開国史研究会会長

山本 詔一

<シンポジウム>

二十年を振り返る

パネリスト 加藤 祐三・平尾 信子・齋藤 純

コーディネーター 山本 詔一

<総会記念講演>

浦賀奉行所の明治維新 －奉行・与力・同心たちのその後－

齋藤 純

<開国史研究講座>

横須賀からみる海の幕末変革史

神谷 大介

軍港都市の財政問題 －戦前期の横須賀市財政－

大豆生田 稔

浦賀のええじゃないか

山本 詔一

<史料紹介>

「浦賀へ異国船が来たり嘶かまちへ（町まち）」

齋藤 純

－ペリー来航時の浦賀特製戯れ歌－

「古文書を読む会」の記録（3）

有馬 正泰

横須賀開国史研究会 二十年のあゆみ

「開国史研究」総目録

「よこすか開国史かわら版」総目録

『開国史研究』第二十一号

令和3年（2021年）3月発行

口絵『浦賀屯営』

口絵解説

齋藤 純

『開国史研究』第二十一号の発刊にあたり

横須賀開国史研究会会長

山本 詔一

＜開国史講演会＞

世界史からみる日本の開国と横須賀

東京大学名誉教授

宮地 正人

池田頼方『道中心乃栞』を読む

増 渕 勝一

（史料翻刻）倉 沢 千恵

日米和親条約の第十一条問題再考

東 郷 えりか

浦賀屯営について ―安達書簡によせて―

齋藤 純

『邊蛮彙議』の欄外注記に関する考察

今 津 浩一

＜史料紹介＞

サラセン号浦賀来航の記録（二）

齋藤 純

『開国史研究』 第二十二号 令和4年（2022年）3月発行

口絵『美人（花魁）』

口絵解説

国立歴史民俗博物館名誉教授

横山 百合子

『開国史研究』発刊にあたり

横須賀開国史研究会会長

山本 詔一

＜開国史講演会＞

遊郭から見た明治維新

ー日本洋画の父 高橋由一の油彩画「花魁」をめぐってー

国立歴史民俗博物館名誉教授

横山 百合子

＜開国史研究講座＞

横須賀に西洋館がやってきたーティボディエ邸の再現と展示ー

横須賀市教育委員会生涯学習課文化財担当

亀井 泰司

ペリーは、なぜ日本に来たかーその隠された目的ー

今津 浩一

異国船情報提供を契約していた浦賀商人ー紀伊国屋伊兵衛の場合ー

齋藤 純

＜史跡めぐりレポート＞

東側の浦賀道を巡る（一）ー保土ヶ谷～金沢八景ー

横須賀開国史研究会幹事

安保 進

＜史料紹介＞

サラセン号浦賀来航の記録（三）

齋藤 純

『開国史研究』 第二十三号

令和5年（2022年）3月発行

口絵『弘化四年浦賀湊海岸鳥観図』

口絵解説

齋藤 純

『開国史研究』発刊にあたり

横須賀開国史研究会会長

山本 詔一

<開国史研究会 総会記念講演>

横須賀の発展と海軍 ―造船とその時代―

國學院大學文学部兼任講師 高村 聰史

<開国史講演会>

幕末社会 ―ペリー来航による社会変動―

明治大学情報コミュニケーション学部教授 須田 努

<開国史研究講座>

日本を開国させた男、松平忠固

拓殖大学政経学部教授

関 良基

日米和親条約における領事等駐在規定をめぐる考察―改訂増補―

今津 浩一

デンマーク船ガラテア号の来航とその意義

山本 慧

『東福寺詣』を読む

山本 詔一

<和歌翻訳> 田辺 康仁

<資料翻刻> 倉沢 千恵

<史料紹介>

サラセン号浦賀来航の記録（四）

齋藤 純

『開国史研究』 第二十四号

令和6年（2024年）3月発行

口絵『1853年7月14日 ペリー提督率いるアメリカ遠征隊の日本上陸』

口絵解説 神奈川県立歴史博物館主任学芸員 嶋村 元宏
『開国史研究』発刊にあたり 横須賀開国史研究会会長 山本 詔一

<開国史研究会 総会・記念講演>

ペリー来航170周年記念

描かれたペリー来航 ―画像史料にみる日本開国―
神奈川県立歴史博物館主任学芸員 嶋村 元宏

<開国史講演会>

ペリー来航170周年記念

変わる黒船のイメージ ―黒船のカルチャーショック―
了仙寺住職 松井 大英

浦賀郷学校から浦賀小学校へ

幕末大名の軍事知識 ―ペリー艦隊対抗策について― 久保木 実
今津 浩一

<史料紹介>

サラセン号浦賀来航の記録（五） 齋藤 純